

活水高校と議員との意見交換会の要旨

○参加者 議員：久保田議員、赤木議員 高校生：活水高校2年生4名

○発表テーマ：シャッターペイントを使った町の活性効果

○意見交換会要旨

(久保田議員)

政策提案の発表は、非常に興味深く、議員にとっても勉強になる話だったが、このシャッターペイントに着目したきっかけは。

(活水高校先生)

長崎市内の6か所ほどの商店街が活性化に取り組んでいて、シャッター街の対策をしていた。それが自治体を通して募集があり、そのうち2つの商店街を活水高校が担当しペイントしたもの。絵具代などの経費は自治体が負担した。

(久保田議員)

1枚の絵を何人で描いているのか。また制作期間はどのくらいなのか。

(生徒)

自分達は6人で実施した。先輩達は3人で制作していた。期間は、先輩達は夏休みの期間中に行っていた。自分達は冬休み中かかって完成したが、雪の中での作業もあり大変だったが、寒い日に近所の人から七輪を持ってきてくれたり、ケーキの差し入れをもらったり、地元の人とのふれあいが楽しかった。

(久保田議員)

シャッターペイントの作成にあたり難しかったことは。

(生徒)

錆びている部分に絵具を塗ると、錆びの色がつくので、最初に白で塗ってから絵を描くなどの処理が必要だった。

(赤木議員)

今回の発表をするにあたり、実際に離島のシャッター街を視察に行ったのか。

(生徒)

離島には行ってない。電話で離島の方に話を聞いたり、ネットのストリートビューから画像を取り込んだりしてスライドを作成した。

(赤木議員)

大変だとは思いますが、是非続けていって欲しい。他のシャッターペイントなどに興味を持ったりしたか。SNSで発信してみたいなど、興味もでてきたのではないか。

(生徒)

やはりインスタ映えするものなどがSNSで発信するためには重要。色々なもの

を見てみたい。

(赤木議員)

ランタンフェスティバルももうすぐあるが、シャッターペイントをした館内町もその頃はライトアップされて綺麗になるので、夜の風景も是非また見にいった欲しい。

(久保田議員)

発表でもあったが、年数が経つと色が落ちて景観が悪くなる。せっかく良い活動なので、この活動を後輩や友達などに繋げて伝統にしていって欲しい。大変だと思うが、その活動の継続が長崎の街の活性化にも繋がっていくと思う。